

滋賀県文化審議会第10回会議 議事概要

- 1 日時 平成25年11月27日(水)13:30～15:15
2 場所 大津合同庁舎
3 出席者 委員：青木会長、杉江委員、巽委員、辻委員、殿村委員、中井委員、
角野委員、福山委員、松崎委員(9名出席)

事務局：総合政策部次長、文化振興課長ほか

- 4 議題 (1) 滋賀県文化振興基本方針の評価指標について
(2) 滋賀県文化審議会評価部会における審議内容について
(3) 滋賀県文化審議会次世代育成部会における審議内容について
(4) その他(報告) 新生美術館について
- 5 議事概要 以下のとおり

次長挨拶
議題

(1) 滋賀県文化振興方針の評価指標について

委員：芸術鑑賞した小・中学生については、子ども達の数もあるので、%で示す方が分かりやすい。今の表記では、鑑賞者数が減っているのか、児童数が減っているのかわからない。

委員：文化振興で県民が文化豊かな生活を送るということも大事だが、もう一つ、その地域の文化性を対外的に発して、その地域の交流振興が増えることも大事である。

滋賀の文化を誇りに思っている人の割合90%とあるが、いつも問題に思っているのは、県民の皆様は90%満足しているけれども、県外の皆様が滋賀県をそう思っていないという事。県民が90%満足しているのだったら、県外の方が滋賀県の文化振興策・文化の度合いについて、どう思っているかということも大事だと思う。

県の諸策というのは税金を使ってやっているので「地域として活性化する」というのが県政の大きな役割だと思う。

また、県内に居住する芸術家の数が増えているが、県内でこの芸術家が発表する場所がないというのが一番の問題である。

県内で居住する芸術家の数をとるだけでなく、県内でどれだけ芸術発表されているのかを数値目標にしていかなければならない。県政の満足で終わってしまうような気がする。

委員：純粋美術の芸術家は減っていて、デザイナーの方に移動しているのが、大学の入試とまるっきり同じ傾向である。この頃は純粋美術に関わる人はものすごく減っている。

委員：産業振興とデザインとは非常に重要なものだが、両者のドッキングのところは、今のところ、大学の先生などの個人的な部分に頼っている。産業という面で“デザイン”というものを県として十分に押し出して行って、産業振興とドッキングさせる。そういう意味では文化振興というのは地域の活性化にとって非常に重要である。ただ単に県民の生活が潤うということではない。

委員：文化と経済は結びついている。芸術家でもどのくらい生業として成り立っているのか、滋賀県でできた文化がどれくらいの経済効果を生んでいるのかというような経済指標をもっていた方が、本当の文化振興がみえるのではないかと思う。

事務局：数値には色々な要素があるわけで、数値の目的はきちんとしなければならない。就学児童による割合が何%だったのかということも合わせて整理したいと思う。
例えばびわ湖ホールに来られた際、県内の他の場所でもお金を使ってもらう仕組みを考えたり、衣装を県内業者に発注し県内のものを外に発信したり、芸術家に滋賀に住んでもらったりすることも大切だと思う。
頂いたご意見を参考にしながら、経済効果がどれくらいなのかも含めて、アーティストの方が何を望んでいるのか、あるいは県民が何を望んでいるのか、もう少し分析して、次の計画をしていきたいと思う。観光に関して連携していく。

委員：文化振興のビジョンの問題だと思う。びわ湖にオペラというものを持ってきたビジョンが今問われている。例えば“美の滋賀”でも、芸術家がたくさん住んでいるのに発表の場所がない。経済効果とか地域への影響とか、その辺のビジョンへの明確化が違う。例えばオペラでも、コストダウンの為に舞台装置を世界中持ち回りするということであって、「うちだけは、地元の経済効果の為に舞台装置は滋賀県で作ります」と言っても通らない。やはりどういう文化をもって地域振興していくのかということのビジョンをもっと明確にしないといけない。

委員：発表の場はとても大切。たとえば企画として、「びわ湖の周りをイルミネーションで飾る」というのがあれば、それを作る芸術家がいて、それを生業にすることもできる。しかし、それを芸術家に任せていたら、なかなか自分で発表の場というのは作りにくい。発表の場をもっと大きな感じで作っていかないといけない。芸術家としての生業が成り立って、経済効果が出てくる。

委員：大阪府民からすると、滋賀の情報が手元にこない。広報がまだまだ不十分だと思う。観光振興と文化振興とがうまく線引きがされず、ごっちゃになった形でここに盛られているように感じる。もう少し整理があったほうがよい。

(2) 滋賀県文化審議会評価部会における審議内容について

委員：近代美術館の石山寺の縁起絵巻展は感動するものだが、ちゃんと伝わっていない。展

示や情報発信がとても専門的で一般的でない。石山寺の素晴らしい歴史観を見られるはずなのに、それは全く書いてない。とてもマニアックになってしまっている。今はインターネット等あらゆる手段を使用しないと伝わらない。中身はとても良いのに非常にもったいない。

委員：文化の高揚というのは、“保存・研究・発信”である。石山寺縁起絵巻に関して言えば、保存・研究はとても素晴らしいものだが、発信を考えていない。石山縁起の展示を石山寺でやればもっと素晴らしいが、近代美術館でやると、違和感が当然あると思う。どこに発信効果が一番あるかを考えなくてはいけない。

長栄座も、びわ湖ホールも全国的に著名な学者や研究者、劇場・音楽関係者から公演を高く評価されたことを書いているが、これを書いていることに問題がある。滋賀県の文化振興の一連の姿勢が、専門家に高く評価された、中身は立派なものだ、分からない皆さんが悪いという姿勢がある。

それと美術館については根本的に場所が悪い。そういう状況で発信をやる、中身の良いものをやるということのみが文化振興ではない。結局、ビジョンの問題である。何を持って文化振興をするか、クオリティーの高いものを自己満足で発信する事が文化振興なのか、持っているものをいかに発信していくか、県民の人・県外の人が文化を共有できるか、などそこまでのビジョンを持つことが文化振興には重要な要素である。

委員：クオリティーは保つべきであると思う。長栄座の場合は、非常にある意味では苦しいプロジェクトをやっていると思う。伝統芸能というのは、そもそも非常に愛好者人口が減ってきている。とにかく多くの人が集まるもののみをやるというのでは、文化振興の面ではよくないのではないか。経済効果の面ではいいが、もう少し長い目で見た時にやはりやらなければならない部分だと思う。ただし、その為に子ども達への事前の準備というものをかなりやっていかなければならない。

びわ湖ホールで上演されているオペラは他の県ではやらない演目をやっているというので、県外から注目を集めていることは確かである。単にお金が儲かったということにはならないけれども、その中で滋賀県の満足度が上がっていくという、目に見えない経済効果もきちんとみていかなければいけない。

委員：生業というか、食べていけるようにならなかつたら芸術家も育たない。クオリティーを下げるという意味ではないが、食べていけないのに文化は育たない。

委員：びわ湖ホールが建てて15年になるので、滋賀県で、文化振興の中で、オペラはどうあるべきかということを経営として明確にしないといけない。

委員：子ども達が教育の中でもっと学ぶということを経営策の中にきっちりと盛り込まないといけない。食べていけないとだめだということもあるが、“心が豊かになる。”ということが、元気になる、働ける、ということに繋がっていく。学校教育もすごく重要

だと思う。

委員：学校の中で文化は基本的に入っていない。日本有数のホールなので、そこに一度行って何かを見たら、一生心に残る。

委員：日本の美術館というのは、基本的にはヨーロッパやアメリカの名画をもってきて、それで新聞社とか放送局がお金を出して行く。日本の美術館の存在感が全然ない。なぜかという、主体性がない。やはり誰もが行きたいものをやらないといけない。クオリティーは悪くない。

文化でアーティストを育てるのは、容易な事ではない。好きだから色々やっているが、食べていくのが大変である。

(3) 滋賀県文化審議会次世代育成部会における審議内容について

委員：今、色々なところでふるさと学、地元の学問の発展が言われている。ふるさと学の文化の担い手に芸術家の方々をはじめこんでいったりして、全国に広めていけば、滋賀県は発展した県として発信していけるのではないか。

委員：“アートで子どもの育成”これはとても重要なテーマである。次世代といっても、芸術家の次世代と子ども達の次世代と二つある。このテーマは非常に重要なことなので、もう少し体系だってほしい。国民文化祭開催も県民の文化力向上の点で重要である。大きなビジョンの中で、もっと長期的に次世代育成を考えていくことは非常に重要なことだと思う。

委員：実際、県の予算がない中で「学校にアートがやってきた」推進モデル事業のような事をやっていくとすると、今回の成果をそれぞれの学校の先生に紹介していくということで、学校独自の取り組みとしてそういうことをするところがでてくる気がする。お金がない中でもどういうふうにしていくか。せつくなので、この話を県内の小中学校に伝えていくことも重要ではないか。

委員：学校にアーティストが来て、自分の作品を制作するのも重要だが、ワークショップみたいな形のほうがいいと考える。日本の制度というのはアートのことは考えてない。そういう授業もない。何かさせる事が必要であり、それが日本には欠けている。

委員：教育委員会の事業・市とか県の事業は単年度で、今年は予算がついても、あとやろうと思ったら、「お金がないのでできません。」となる。予算をつけないと芸術家も困るし、学校も困る。来年度もぜひ予算をつけて頂いてやっていくことは非常に重要である。

(4) 新生美術館について

委員：近代美術館は場所が悪い。立地条件は非常に素晴らしいが行きにくい。産業振興をすれば全然世界が違ってくる。産業振興と文化振興を両方やるといい。最初やるのは大変だけれども、実際やれば全然違う世界が広がってくる。

委員：子育て真最中の若いお母さん達は、ネットで情報共有をしている。子育ての親子を対象にした企画をするのも必要ではないか。

委員：県民の財産をどう使っていくか。ロケーションはどこがいいのか。そこまで考えていないことには駄目。ただ単に現代美術を集約して展示するというだけでは、非常に弱い。

委員：HPとか充実させると、全国から問い合わせがる。HP見ていると、おもしろそうだからぜひ見てみたいとか。

滋賀県は古いものも新しいものもいいものがあるが、どうやってお客さんに来てもらうかが難しい。

～ 以上 ～